

建築工事施工計画報告書

建築基準法第12条第5項の規定に基づき、下記のとおり建築工事施工計画を報告します。
この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

年 月 日

江戸川区長 殿

代表となる工事監理者 住所
会社名
氏 名

電話 ()
()級建築士事務所()登録第()号
()級 建 築 士()登録第()号

工事施工者 住所
会社名
氏 名

電話 ()
建設業の許可 大臣・知事 第()号

品質窓口責任者氏名

確認申請書（第2面）において
工事監理者又は工事施工者欄が「未定」の場合は、確認申
請先に提出した「工事監理者届」又は「工事施工者届」の
写しを添付してください。

記

(1) 工事現場	名 称			工区棟	工事の種類	新築・増築・改築
	所在地	江戸川区〇〇-△△ ※地名地番を記入してください。				
(2) 構造設計者	氏名	施工計画報告の対象となる建築物について 確認申請書（第4面）に記載されている床面積合計を記入してくだ さい。建築面積においては、面積表等を参考に記載してください。				
(3) 現場代理人(所長)	氏名					
(4) 階数	地上 階・地下 階 塔屋 階	(5) 建築面積	m ²	(6) 延べ面積	m ²	
(7) 構造	木造・S造・RC造・WRC造・SRC造・混構造(造＋ 造)・その他()					
(8) 高さ	軒高 m 最高 m	(9) 確認済証交付機関				
(10) 確認・計画通知、年月日及び番	軒高と最高高さが逆に記載されていることがあります。 確認してください。					
(11) 計画変更年月日及び番号						年 月 日 第 号
(12) 構造計算の方法	(X) ルート()、(Y) ルート()、その他()					
(13) 構造(階ごと)	RC造・WRC造	階から 階まで	(14) 使用部	PCa・HPCa		
	SRC造	階から 階まで		PC		
	S造	階から 階まで		CFT		
(15) 認定材料	コンクリート	※ 受 付 欄				
	鋼 材 等					
	免震・制振部材					
	そ の 他					

(注意) 1 ※印のある欄は、記入しないでください。
2 代表となる工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容と確認済証及び設計図書等が整合しているか十分確認して記入してください。

鉄筋工事及びコンクリート施工計画報告書

コンクリート使用材料及び施工

基礎の種類		☐ 直接基礎 { ☐ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☐ 独立基礎 } ☐ くい基礎 { ☐ 場所打ち鉄筋コンクリート杭 ☐ 既製杭 (PHC杭、SC杭、鋼管杭、その他 ()) }								
コンクリート確認項目	施工	使用工法			基準	☐ JASS5(年版) ☐ その他()				
		使用部位	杭	基礎	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	
		設計基準強度								
		打設方法								
		使用工法				軽量()種	モルタル	グラウト		
		使用部位	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階			
		設計基準強度								
		打設方法								
	試験・検査計画	品質管理責任者 氏名				工事監理者 又は係員氏名		常駐 非常駐		
		検査担当者(工事施工者) 氏名				監理者○ 管理者×				
検査項目		打込前	☐ 試練 ☐ 散水 ☐ 配筋 ☐ かぶり厚さ		常・非					
		打込中	☐ テストピース採取 ☐ 打込速度・順序 ☐ 締固め		常・非					
打込後		☐ 養生方法 ☐ 養生温度 ☐ 打込欠陥		常・非						
エア・スランプ試験等の代行業者名				登録番号 採 号						
供試体の養生場所・管理者				※供試体を養生する場所 及び 管理者を記入してください。						
構造体コンクリート試験機関名				Fc36N/mm ² 以下の場合 Fc36N/mm ² 超の場合		都登録第 号 都登録第 号				

鉄筋使用材料及び施工											
使用鉄筋	種別	SD295		SD345		SD390		SD490		その他()	
	使用径	D ～D		D ～D		D ～D		D ～D		D ～	
鉄筋確認項目	施工	継手種類		圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)	
		使用箇所									
		継手工法名(溶接材料)		重ね継手の場合、外観 検査の割合を 記入してください。							
		継手施工会社(優良圧接業者)									
				A 級	その他	SA, A級	その他				
		技量確認・施工前試験									
	冷間直角カッターの使用										
	試験・検査計画	外観検査(%)									
		引張試験 (箇所/ロット)									
		超音波探傷・測定検査 (箇所/ロット又は%)									
引張試験併用											
引張試験機関名								都登録 第 号			
非破壊検査機関名								都登録 第 号			
外観検査実施者		工事監理者・工事施工者/検査機関 検査者		資格		都登録 第 号		資格			
鉄筋コンクリート工事 重点管理項目											

[illegible]

(注意) 1 レディーミクストコンクリート工場が複数ある場合は、工場ごとに作成する。
2 コンクリートの使用骨材による種類を記入する。
3 コンクリートの使用材料・施工条件・要求性能などによる種類(通常、寒中、暑中、軽量、流動化、高流動、高強度、マスコン、プレストレスト、水中、水密)を記入する。
4 高強度コンクリートの場合は、Fc+mSnのそれぞれの項の値を()内に別途記入する。
5 高強度・マスコン・暑中・寒中コンクリートについては、必ず記入する。

[illegible]

(日本産業規格A列4番)

鉄 骨 工 事 施 工 計 画 報 告 書											
工 事 名 称						建築工事施工 計画報告書		年 月 日 第 号			
鉄 骨 加 工 工 場	名 称										
	所 在 地							代表者氏名			
	大 臣 認 定		認定番号		グレード		認定年月日 有効期限				
使 用 鋼 材	鋼 材 種 別 (最大板厚) (mm)		柱			梁			その他		
			SS ()			SS ()			ダイアフラム		
			SN ()			SN ()			()		
			STKR ()			その他 () ()			ベースプレート		
			その他 () ()						()		
接 合 部 の 概 要	主 要 部 材 形 状	柱	☐ 鋼管（角形、円形） ☐ H形鋼 ☐ その他（ ）		柱 梁 の 接 合 方 式	☐ ブラケットタイプ ☐ ノンブラケットタイプ			柱 脚 形 式	☐ 埋込柱脚 ☐ 根巻き柱脚 ☐ 露出柱脚	
		梁	☐ H形鋼 ☐ その他			☐ 通しダイアフラム ☐ 柱通し（内・外ダイアフラム） ☐ 梁通し ☐ その他（大臣認定等 ）					
	部 位 別 接 合 方 法		部位	鋼材			接合方法				
			柱－柱	() － () () － ()			☐ 溶接接合（ ☐ 工場 ☐ 現場） ☐ 高力ボルト接合（ ☐ 摩擦 ☐ 引張）				
			柱－梁	() － () () － ()			☐ 溶接接合（ ☐ 工場 ☐ 現場） ☐ 高力ボルト接合（ ☐ 摩擦 ☐ 引張）				
			梁－梁	() － () () － ()			☐ 溶接接合（ ☐ 工場 ☐ 現場） ☐ 高力ボルト接合（ ☐ 摩擦 ☐ 引張）				
(注意) 1 工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容が設計図書等と整合しているか十分確認して記入すること。 2 鉄骨加工工場を複数使用する場合は、工場ごとに作成すること。											

溶 接 工 事										
工場溶接（完全溶込み溶接部）					工事現場溶接（完全溶込み溶接部）					
☐ 被覆アーク溶接 ☐ ガスシールドアーク溶接 ☐ サブマージアーク溶接 ☐ その他()					☐ 被覆アーク溶接 ☐ ガスシールドアーク溶接 ☐ サブマージアーク溶接 ☐ その他()					
鋼材の切断の方法										
開 先 の 形 状		別添図 のとおり			開先の仕上方法					
エンドタブの種類と 主な使用部位		☐ 鋼製タブ								
		☐ フラックスタブ（セラミックス フラックス）								
種 類	使用部位	鋼 種	最大板厚	種別	溶接材料等	作業姿勢				
工 場 溶 接	完全溶込み			mm			F V H O			
							F V H O			
							F V H O			
							F V H O			
	すみ肉						F V H O			
							F V H O			
溶 接 管 理 技 術 者		所属			氏名		資格			
溶 接 検 査 責 任 者		所属			氏名		資格			
受入検査	検 査 機 関 名				都登録 CIW	第 番号	号			
	検 査 員	氏名 資格								
	検 査 率	☐ 外観検査 % ☐ 超音波探傷検査 % ☐ 内質検査 %								
	検 査 内 容									
種 類	使用部位	鋼 種	最大板厚	種別	溶接材料等	作業姿勢				
工 事 現 場 溶 接	完全溶込み			mm			F V H O			
							F V H O			
							F V H O			
							F V H O			
	すみ肉						F V H O			
							F V H O			
溶 接 管 理 技 術 者		所属			氏名		資格			
受入検査	検 査 機 関 名				都登録 CIW	第 番号	号			
	検 査 員	氏名 資格								
	検 査 率	☐ 外観検査 % ☐ 超音波探傷検査 % ☐ 内質検査 %								
	検 査 内 容									
重点管理内容										

高力ボルト接合工事

高力ボルト接合工事施工者名称：

施工管理責任者	所属	氏名	資格
高力ボルトのタイプ	☐ トルシア形高力ボルト	☐ 高力六角ボルト	☐ 溶融亜鉛めっき高力ボルト ☐ その他()
高力ボルト認定番号		JIS B 1186	
接合方法	☐ 摩擦接合 ☐ 引張接合	☐ 摩擦接合 ☐ 引張接合	☐ 摩擦接合 ☐ 引張接合
摩擦係数	0.45()	0.45()	0.40()
摩擦面の表面処理	母材() スプライスPL() フィラーPL()	母材() スプライスPL() フィラーPL()	母材() スプライスPL() フィラーPL()
ボルトの締付方法	☐ トルクコントロール法	☐ トルクコントロール法 ☐ ナット回転法	☐ ナット回転法
締付機器	一次締： 二次締：	一次締： 二次締：	一次締： 二次締：
すべり係数試験 (リン酸塩処理摩擦面)	☐ 有 1 試験体： ☐ 標準試験片 ☐ 工事現場継手に準ずる ☐ 工事現場継手と同一 2 摩擦面： ☐ 自然放置() ☐ 化学処理() ☐ ショットブラスト ☐ 省略：照合用標本との比較による目視確認		
軸力導入試験 (トルシア型高力ボルト)	☐ 有 ☐ 省略：()		
重点管理内容			

試験・検査の計画

試 験 ・ 検 査 等 の 項 目		鉄骨加工業者	工事施工者	検査機関	工事監理者	試 験 ・ 検 査 等 の 項 目		鉄骨加工業者	工事施工者	検査機関	工事監理者
工場製作	1 鉄骨加工工場の決定					工事現場施工	1 工事現場施工計画書				
	2 製作要領書						2 建方検査				
	3 工作図						3 高力ボルトの検査				
	4 使用材料(鋼材・ボルト等)						3-1 摩擦接合面検査				
	5 現寸検査						3-2 軸力導入試験				
	6 組立検査(開先形状等)						3-3 締付け後検査				
	7 寸法精度検査						4 溶接部の検査				
	8 溶接部の検査						4-1 外観検査				
	8-1 外観検査						4-2 超音波探傷検査				
	8-2 超音波探傷検査						4-3 内質検査 ※				
8-3 内質検査 ※					5 その他()						
9 その他()											

自主検査(○) = 鉄骨加工工場が、社内検査を実施する項目について○印をつける。

承認(○) = 工事施工者・工事監理者が鉄骨加工工場の自主的な検査に任せ、事後報告を一括して行えば良いとした項目に○印をつける。

立会い(□) = 工事施工者・工事監理者が鉄骨加工工場の自主的な検査に任せ、事後報告を一括して行えば良いとした上で、確認のために一部サンプルの立会検査を行う項目に□印をつける。

受入れ検査(△) = 工事施工者・工事監理者が、自ら又は第三者機関に代行させて検査を実施する項目に△印をつける。

※ 高さが45mを超える建築物で溶接する鋼材の板厚が25mm以上の部分又は高さが45m以下の建築物で溶接する鋼材の板厚が40mmを超える部分において、鉄骨造等の工事に関する東京都取扱要綱により内質検査を必要とする場合は、受入検査として実施すること。